

今週のコメント

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.07で、過去5年平均値(0.56)を上回っています。
- ・ パラチフスの報告が2例で、本年初めての報告です。推定感染地域は2例とも海外です。(第16,17週分)
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例で、平成20年度(平成20年4月以降)では初めての報告です。1月からの累積報告数は4例です。
- ・ 細菌性赤痢の報告が1例で、本年初めての報告です。昨年の報告数4例を含め、推定感染地域はすべて海外です。5月の連休には、海外渡航による感染症罹患の機会が増えることが考えられますので、十分ご注意ください。
- ・ 急性脳炎の報告が1例で、本年初めての報告です。(第16週分)

今週のトピックス:<感染性胃腸炎>

- ・ 定点当たり報告数は8.22で、先週(6.37)に比べやや増加し、過去5年平均値(5.74)を上回る値となっています。詳細は、トピックスに掲載しています。

発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 2例(喀痰塗抹陽性2例,無症状病原体保有者 なし)
【1月以降の累積報告数 80例(喀痰塗抹陽性 26例,無症状病原体保有者 7例)】
- ・ 三類:パラチフス2例(第16,17週分)【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ 三類:腸管出血大腸菌感染症(O157 VT2)1例(第16週分)【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 三類:細菌性赤痢(ディセンテリ)1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類:急性脳炎 1例(第16週分)【1月以降の累積報告数 1例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68,小児科定点41,眼科定点10,基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.38	26
小児科 (降順5位まで)	感染性胃腸炎	8.22	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.07	44
	水痘	0.93	38
	突発性発しん	0.46	19
	手足口病	0.24	10
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP,糞便をFC,髄液をSF,尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
インフルエンザウイルスAH1型(1)	かぜ症候群(第12週)	NP	A群ロタウイルス(2)	感染性胃腸炎(第12,13週)	FC
コクサッキーウイルスB型(1)	かぜ症候群(第12週)	NP	アデノウイルス2型(1)	感染性胃腸炎(第10週)	FC

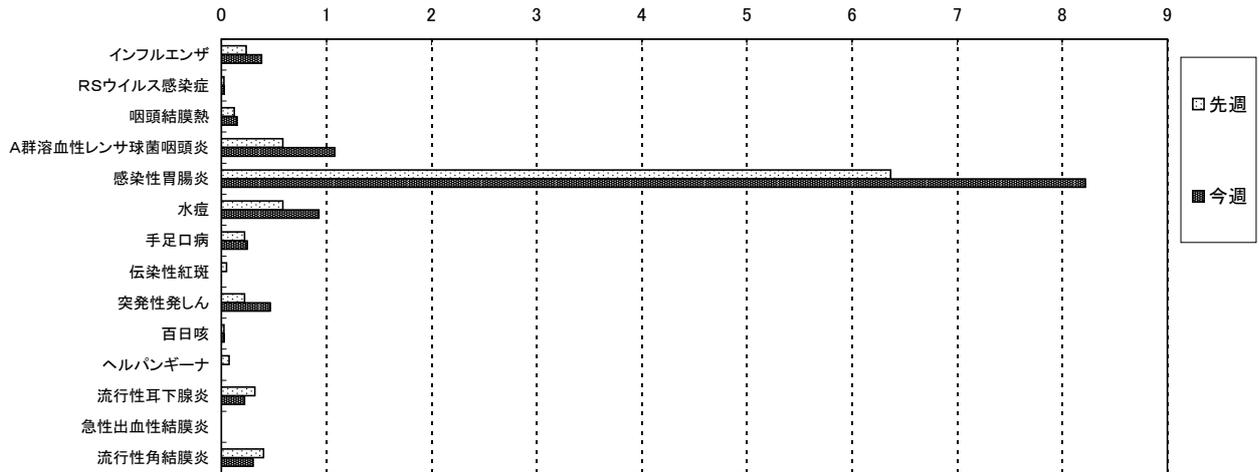
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<感染性胃腸炎>

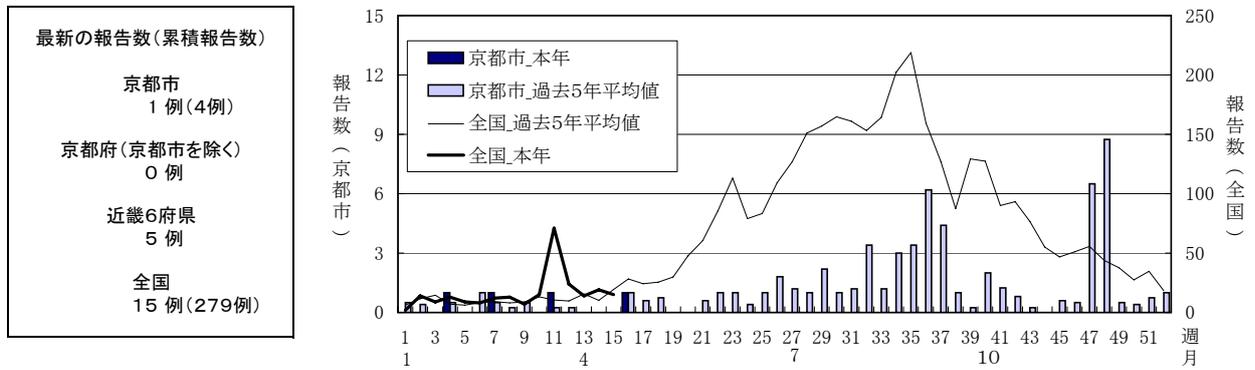
(注)京都市のデータは、平成20年4月17日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第15週)と先週(第14週)の定点当たり報告数の比較

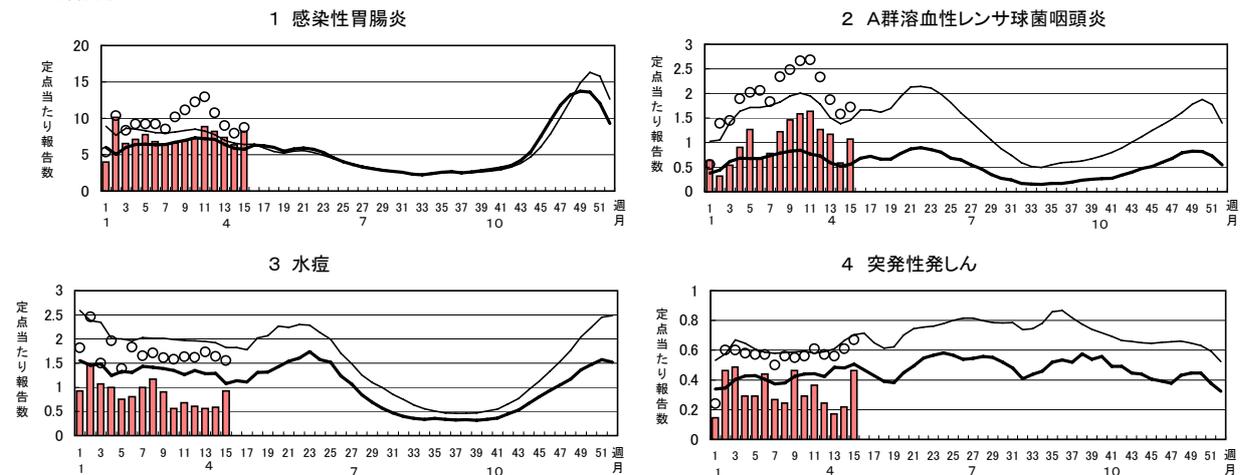


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

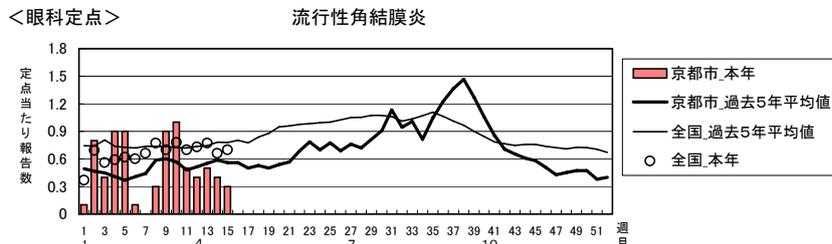


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



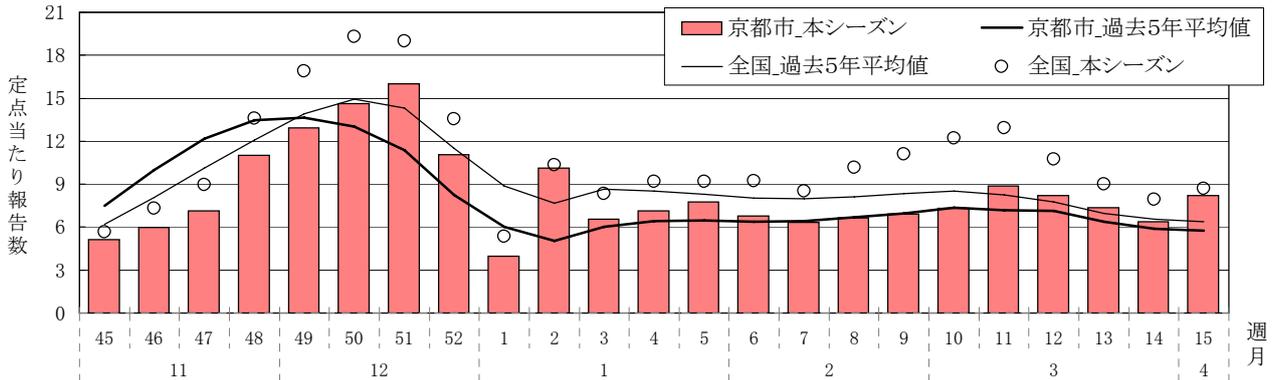
今週(第15週)のトピックス: <感染性胃腸炎>

定点当たり報告数は8.22で、先週(6.37)に比べやや増加し、過去5年平均値(5.74)を上回る値となっています。年齢階級別定点当たり報告数の推移をみると、第11週以降、1歳が最も多くなっています。

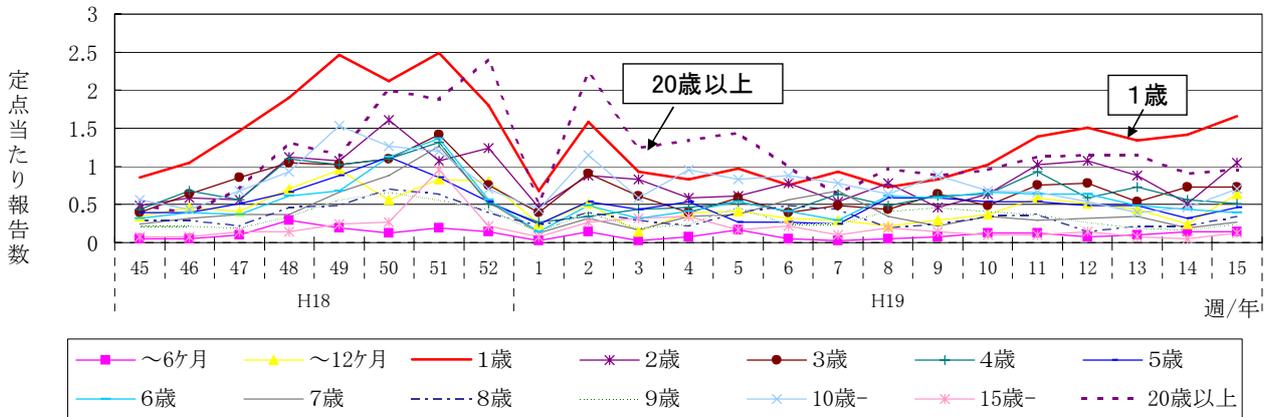
昨年から現在までの京都市の病原体検出状況の推移をみると、ノロウイルスは、昨年の12月に最も多く検出されており、12月から2月までの冬季に多くなっています。A群ロタウイルスは、昨年の3月、5月、本年の3月に最も多く、春季に多く検出されています。全国においても、同様の傾向です。

好発年齢や起因病原体など、冬季と傾向が変化していますので、動向にご注意ください。

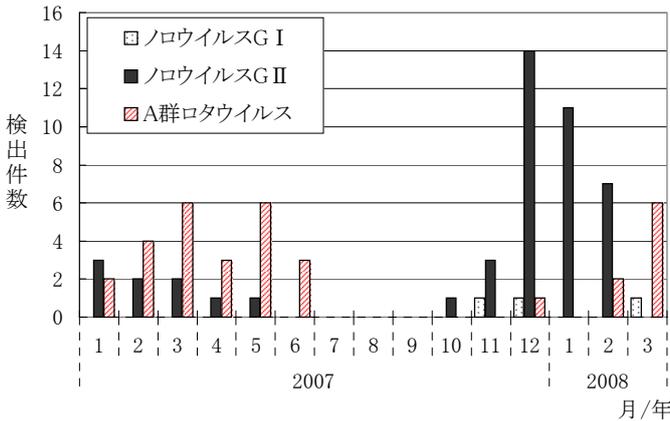
定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移



京都市の病原体検出状況の推移



全国の病原体検出状況の推移

